

館報 はた



スージーちゃん スイカ7くん

令和6年5月1日現在

世帯数	6,420戸
人口	15,246人
男	7,390人
女	7,856人

町会連合会長就任あいさつ

波田地区町会連合会
会長 大月 朋明



この度、波田地区町会連合会会長を仰せつかりました。7区町会の大月朋明（おおつきともあき）と申します。

日々、多岐に渡る会長業務にあたるなか、その職責の重さに身が引き締まる思いです。

会長として舵取りが適切に行えるかどうか不安が増すばかりですが、これまでお世話になった波田地区に、少しでも恩返しできればという気持ちで精一杯務めさせていただきます。

波田地区におきましては、仁王尊股ぐり祭りや、諏訪神社のお祭り、現在は中止となっておりますが水輪花火大

会など、沢山の行事があります。伝統ある行事をいかにして後世に残してゆくか、皆様と話をしていきたいと考えております。

さらに、市立病院の建替え、中央運動広場の移設、波田駅周辺整備、中部縦貫道の建設それに伴う扇子田運動公園の移設など、大きな公共事業が多数進められており、波田地区が大きく変わろうとしています。住民の皆様にはご不便をお掛けすることも多々あるかもしれませんが、町会連合会も工事の進捗状況を注視しながら見守っていきたく思います。

最後に、私が現在行っている木彫り彫刻の紹介をいたします。

彫刻クラブの会長として月2回、波田公民館で木彫り作品の制作活動しております。各自が自由に彫りたいものに挑戦し、木がもつ木目の美しさや、花、山、松本城など身近なものを作品にしています。作品は文化祭で展示し、

多くの方に見ていただいております。木彫りをしながら色々な話で盛り上がり、あつという間に時間が過ぎてしまうくらい、明るく楽しく活動しております。現在は5名で活動しており、年1回旅行も計画しております。



私の作品です！



文化祭で展示しました！

安養寺のシダレザクラ

4月上旬～中旬、国道158号線沿いの上高地線三溝駅からすぐ、我が波田地区の入口に、こんもりピンク色の一帯が目に入ってきます。

シダレザクラの名所、安養寺です。

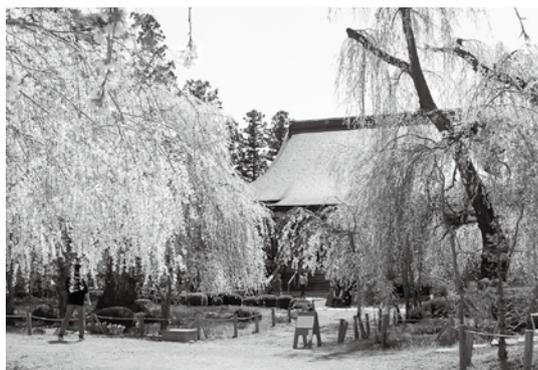
安養寺は浄土真宗本願寺のお寺であり、鎌倉時代中期に創建されました。本堂も大変立派なお寺です。

なんとといっても、春のシダレザクラの咲き誇るピンク色の景色が大変美しく、見事であり、訪れる人々に感動を与えています。



樹齢500年以上の巨木を含め、約20本の桜が境内を埋め尽くすように咲き乱れ、それは圧巻です。同じく境内の三本スギ、コウヤマキと合わせて松本市特別天然記念物に指定されています。

また、隣の田んぼには水が張っており、逆さ桜が映り風情を醸し出しています。



しだれた桜の枝の中で、ほのかな香りを嗅ぎ、静寂の中に身を置くと、日常の雑踏をしばし忘れ、穏やかな癒しを感じる事ができます。

『百聞は一見にしかず』

近くにいらして、まだ訪れたことがない方はぜひ、この素晴らしい桜の名所安養寺を訪れてみてはいかがでしょうか。

波田中学校 三澤校長へ突撃インタビュー!!

この4月より波田中学校へ着任されました、三澤豊（みさわゆたか）校長へインタビューしてきました！



Q4. 波田地区の印象は？

松本電鉄波田駅を中心に、まとまりと広がりを感じています。特産のスイカをはじめ各種果樹栽培も盛んで、ひと・もの・ことへの誇りと気概を感じます。

Q5. 教師を志した理由

もともと電気や機械に興味があつて、大学で物理学を学んだときに、初めて自分の興味関心ごとをとことん追求するって楽しいなと感じて、「学ぶ」ことを柱とする教師を志しました。父親が中学校の教師で、背中を見て育つたことも一因だと思えます。

Q1. ご出身は？

松本市の笹賀です。

Q2. 前任校は？

長野県教育委員会中信教育事務所です。

Q3. 波田中学校の印象は？

心安らぐ中庭を中心に一体感のある校舎、柔らかく温かい雰囲気のある先生方、そして郷土波田への愛着を抱く生徒の皆さん、そして学校を大事に思い、支えてくださる地域の皆様。着任時の私の緊張を希望へと変えてくださいました。

Q7. 得意科目は？

理科です。
図工・美術です。



Q9. 休日の過ごし方

長野県各地に地域探索に出かけて、その土地ならではの酒造と喫茶店。その土地ならではの「水」と「人」に出会えるからです。

Q10. 波田地区の皆さんへ一言

本年度、波田中学校の先生方の合言葉は「全員が主役の学校を生徒と共に創る」です。この合言葉には、本校の全ての先生方の思いが込められています。互いの人格と自由を認め尊重し合う、まさに「生徒が主役」の魅力ある波田中学校を波田地区の皆様と創ってまいります。よろしくお願いたします。

お忙しい中、インタビューにお答えいただきありがとうございます！



波田地区の益々の発展のため、共に歩んでまいります！

着任のごあいさつ

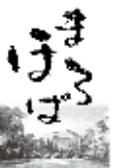
波田地区地域づくりセンター
センター長 平林 正隆

4月から地元である波田地区に戻ってまいりました。

センターは役場時代に20年勤務し、慣れ親しんだ場所であるため、着任した際は安心感を覚えられました。だからといって気を緩めるわけではありません。愛着あるこの地区で仕事をさせてもらえるわけですから、精一杯頑張ります。

波田地区は、鎌田、芳川に続き市内で3番目に人口の多い地区です。代々住んでおられる方もいれば、居住の地として新居を構えた方も多くいらつしゃいます。40年前の3千強の世帯が、現在6千世帯を超えているため、概ね半々といったところででしょうか。

近年、若い世代を中心に地域とのかかわりが希薄になつてきていることが全国的な問題としてあります。波田地区もその傾向は否定できませんが、町時代から先人の方々が培ってくれたおかげで、公民館や福祉活動は活発に行われています。この活動とつながりの輪を広げ、元気で活力のある地区となるよう取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をお願いします。



波田という地名の由来がずっと気になっていました。

「田園の水面に波がたつ様子から」「古くは海だったから」など、いくつか耳にしました。長野県史の資料をまとめると、以下のような由来が記されていきました。

『平安時代後期、水田開発のために朝廷から派遣された官人の中に、源姓を名のる「波田氏」がいた。伝承によれば波田氏は甲斐源氏の出自であつた。波田氏は土着して豪族化し、鎌倉時代になり、幕府より地頭に任命された。』

波田氏が開発した土地だから「波田」と呼ぶ地となつたと考えてよさそうです。それから約百年後の明治7年に、政府の町村合併のすゝめを受けて、上波多村・下波多村・三溝村の3村が合併し、「波多村」が誕生しました。

さらに昭和8年に、村の平和と水田の豊かさを希求して、「波田村」に変更されました。スイカとリンゴ作りが始まったのは、その二年後でした。初めの村名は、なぜ「波田」ではなく「波多」にしたのかはわかりませんが、教えてくださると嬉しいですよ。